

## 令和 2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ともにつくる居場所づくり「農・福・観」連携事業
事業主体 (連絡先)	つくえラボ 諏訪郡富士見町落合 5949
事業区分	1 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	814,950 円 (うち支援金: 636,000 円)

### 事業内容

・地域の元気を生み出す居場所づくり  
地域住民が得意な農作業やそこから派生する料理教室などを通して都市農村・多世代間交流を図り、地域住民の出番と役割・活躍の場を創出、生きがい・やりがいに繋げるワークショップを開催。

【A】畑作部・稲作部ワークショップ R2年4月～R3年2月  
実施回数 20回 講師 24名 参加者 146名

【B】じゅんかん育ち栽培トライアル R2年6月～R3年2月

1. 農業勉強会

実施回数 2回 (オンライン参加)

2. じゅんかん育ち販売

実施回数 (かがやきデイサービス) 30回 売上 14,310円

実施回数 (つくえラボ) 6回 売上 42,620円



【稲刈りの様子】

### 【目標・ねらい】

- ① 地域住民の出番と役割、やりがいの創出
- ② 都市農村・多世代間交流
- ③ じゅんかん育ちの栽培を通して農業における課題解決を図るとともに、「富士見産」として販路拡大を目指す
- ④ 資源循環型農業の推進

### 事業効果

- ① 新型コロナウイルスの影響により、高齢者を講師とした飲食をとまなうイベントやWSの開催は難しかったが、それ以外の農作業などのWSでは当初の予定とは違う新たな協力が講師となるなど、新たな人材創出と活躍の場に繋がった。
- ② 県境を越えた参加者は募れなかったが、かわりに町内や諏訪圏域から多くの有志が集まったことで域内での交流を深め、新たな地域協働を生み出した。
- ③ ふるさと納税返礼品として新たな販路を生み出した。
- ④ じゅんかん育ちに関心を持ってくれる人が増え、じゅんかん育ちを通して農業に携わる地域住民との新たな関りが生まれた。

### ※自己評価【 A 】

#### 【理由】

- ・コロナ禍であっても、地域住民の活躍の場を創出できた。
- ・域内での交流が深まり、新たな地域協働を生み出した。
- ・新たな販路開拓
- ・次年度のトライアル希望者増加

### 今後の取り組み

今後も引き続き地域住民が出番と役割を持って生き生きと活躍できる居場所づくりに努めながら、交流の拠点・地域の窓口となる古民家の整備・機能拡充も進めていく。また、ニューノーマルにおいての新しい都市農村交流の形を模索し、「コロナが収束した際には行きたい」と思ってもらえるような魅力ある地域づくりを地域協働で推進していく。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある